



令和8年度(2026年度) ▶▶▶ 令和12年度(2030年度)

概要版

しもやまスマイルプラン

《後期プラン》

しもやまスマイルプランって何？

この「しもやまスマイルプラン」は、私たちが住む下山を子どもたちの世代に引き継ぐために、将来の下山について考え、描いた未来の姿を実現するための行動計画です。



下山の5年後の将来像



子どもの声が聞こえ、
笑顔で暮らせるまち しもやま



みんなでめざす下山のまちづくりの方向性

下山に関わる人を増やして活力あるまちづくり

- 「定住人口」の減少を抑える取組にチャレンジします。
- 観光客などの「交流人口」と住民との交流の機会を積極的につくります。
- 地域活動への参加者の増加をめざして、「関係人口」を増やします。

住民主体の地域活動で持続可能なまちづくり

- 住民一人ひとりが地域の運営を考え、住民による地域活動を次世代に引き継ぎます。
- まちづくりに関する地域内の団体が、そのあり方や活動内容を見直し、より適正な運営に努めます。
- 自治区と地域の関係団体、行政との連携を強化して、地域活動を活性化させます。

「安心感」と「わくわく感」が実感できるまちづくり

- 子どもから高齢者まで、誰もが安心して生活できる環境をつくります。
- 下山を盛り上げるために「やってみたい」ことを実現できるように、みんなで応援する機運を醸成します。
- 地域外からの来訪者が、親しみやすく、楽しめる環境をつくります。

分野別プラン

「分野別プラン」では、定住・移住、子育て・教育、健康・福祉など以下の11の分野について、下山全体で取り組むべき施策と具体的な事業を定めています。

主に下山地域まちづくり推進協議会の構成団体（里楽暮住しもやま会、下山商工会、各自治区など）や豊田市下山支所などが中心となって、下山全域の課題解決に貢献する柱となる施策を推進します。



後期プランでは、以下の4つの項目について、重点的に取り組んでいきます。

項目	後期プランで取り組む方向性
定住・移住	「住みよさ」と「定住意識」の向上 生活利便性の向上と定住・移住施策の充実により、特に若年層・子育て世代の住みよさの向上を図ります。
観光	次世代が地域に誇りをもてる観光まちづくり 体験プログラムの開発や環境整備による地域資源の磨き上げや、戦略的な情報発信を関係者が主体的に取り組むことで観光まちづくりを推進します。
農地保全	省力的な管理手法の導入と新たな担い手の確保 耕作放棄地の解消に向け、地域外人材も含めた担い手の育成や、粗放的な農地管理（手のかからない管理）を推進します。
基盤整備	生活道路の計画的整備と安全対策の推進 住民生活に直結する道路の整備・補修を着実に進めるとともに、交通量変化に対応した安全対策を行います。

しもやまスマイルプラン《後期プラン》（概要版） 令和8年3月

発行：下山地域まちづくり推進協議会（事務局 豊田市役所地域活躍部下山支所）
TEL 0565-90-2111 メール shimoyama-shisho@city.toyota.aichi.jp

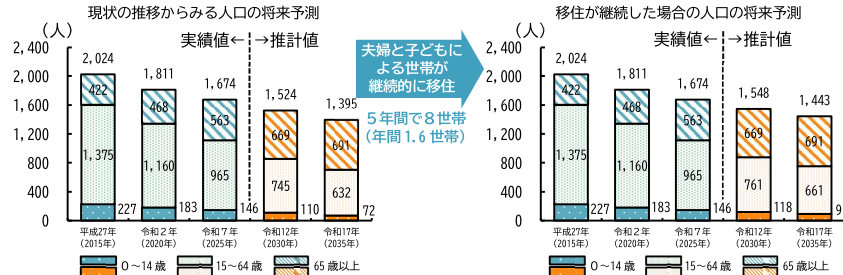


※本編は豊田市ホームページからご覧ください。

花山自治区の人口データ

- 花山自治区には、677 世帯、1,674 人の方が住んでいます（豊田市住民基本台帳、令和7年10月1日現在）。
- 令和12年には1,524人と、今後5年間でさらなる減少が予想されていますが、継続的に若い世代が移住すると、人口構成の回復が期待できます。

花山自治区の人口の推移と推計



花山自治区の5年後の将来像

- 地域のみなが望む区民会館が整備され、地域の交流拠点として活用されています。
- 移住者の受け入れが盛んになっており、地域ぐるみで空き家や遊休地活用の意識が高まっています。
- 子どもや高齢者が、安心感をもって暮らしやすい地域となっています。
- 自治区活動の意識が向上し、防災訓練などの自治区行事に積極的に参加する人が増えています。
- 周辺地域や地域内事業所との情報交換の場が設けられ、良好な関係が築けています。また、TTC-S 全面運用開始による交通渋滞緩和などへの対策を協力して行っています。
- 周辺地域や事業所・従業員との交流やイベントが行われ、新しい販路もできています。
- 地域内交流の機会をきっかけにして、定住の機運が高まっています。

花山自治区の今後5年間の取組

● 取組1: 地域をあげた移住者の受け入れ体制と受皿づくり

人口減少が進む中、今後の自治区活動を維持するためにも、新しい世代の受け入れにより地域活動の担い手につなげる取組が急務となっています。そのため、移住者・転入者を地域の一人として受け入れる土壌づくりをします。具体的な取組として、里楽暮らしもやま会委員を中心に勉強会の内容検討を進めることで、受け入れに向けた機運を醸成します。また、受皿となる空き家の発掘に向け、地域との連携により空き家調査や啓発活動を進めます。さらに、移住後の生活相談先を整えるなど、地域をあげて移住者を受け入れる体制と受皿づくりに取り組んでいきます。

● 取組2: 子どもや高齢者が集える場所づくり

子どもや高齢者が気軽に集まり活用できるよう、自治区内にある集いの場の周知と活用を行います。また、自治区活動の拠点となる区民会館建設に向けた検討と区民に対する意思確認を行います。さらに、既存のイベントを活用した子どもと高齢者を集めた三世代交流イベントを実施し、集いの場を創出します。

● 取組3: 区民が自治区活動に参画したくなる地域づくり

暮らしやすい地域づくりを推進するためには、区民が自治区活動を理解し、活動へ参画しながら自治区を盛り上げていくことが重要です。そのため、自治区活動の啓発と区民の意見を伝えやすい場を提供するとともに、活動をサポートする仕組みや区民のより主体的な活動意識を育てる環境を整備します。また、自治区備品の貸出見える化し、活動支援や非常時の共助体制を整えます。

● 取組4: 周辺地域・地域内事業所との関係づくり

自治区のさらなる発展のためにも、周辺地域や地域内事業所との関係性を密にすることが求められています。このため、相互の情報交換の場や、共同作業による景観整備などを通じて信頼関係を築くとともに、事業所イベントへの参加などを通じた交流の場を設け、安全で活気あるまちづくりを進めます。また、自治区で所有する防犯パトロール車を活用した自主防犯活動にも力を入れ、安心安全な地域づくりをめざします。

重点
取組

重点
取組

	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)	令和12年度 (2030年度)
	1: 地域をあげた移住者の受け入れ体制と受皿づくり				
	①受け入れ勉強会の内容検討・受け入れの機運が高まる啓発チラシの配布				
	②空き家発掘及び啓発活動・里楽暮らしもやま会との情報交換会				
	③移住後の生活サポート支援の検討及び実施				
	2: 子どもや高齢者が集える場所づくり				
①新たな集いの場 調査・検討	集いの場の景観整備・区民会館の住民合意形成				
②イベント部会設置 イベント内容検討	三世代交流イベントの開催				
	3: 区民が自治区活動に参画したくなる地域づくり				
①目安箱活用方法検討	目安箱運用				
②わくわく事業見直し	花山版わくわく事業運用				
③備品貸出制度及び 非常時の共助体制準備	備品貸出啓発及び非常時の共助体制運用				
④ちよこっとパートナー募集	自治区活動への参画				
	4: 周辺地域・地域内事業所との関係づくり				
事業所との関係構築 顔合わせ・意見交換 アンケート等	①交通インフラ整備・充実				
	②獣害対策や草刈り等の協働実施				
	③社会学習支援の充実、交流の場創出				
	④地域遺産や遺産の発掘・紹介				